

季節はめぐっていつの間にか冬に。急に寒くなるから秋はどこにいったのか…？なんて思います。四季が二極化してるなんて話もききますが、そういや夏に通信作ってからまたサボタージュしてたら冬？あれあれ、公文名ファイブに秋はあったのか？考えてみたらちゃんと秋の活動もしていました。この記憶喪失は大人特有のやつですね、「あれ？そういえば11月って何してたっけ？」なんて。（毎月言ってるんですけどね）

今回の通信では9月～10月の活動を（よく記憶を呼び起こしながら…）紹介します！

ヒエトリ

5月に植えた稲ちゃんはすくすく育ち、チェーン除草から逃れた雑草もすくすく育ち、何だか稲の間からヒョンと飛び出たヒエが目立つように…。そう。ヒエトリは体の冷えを取り除くのではなく、田んぼの雑草「ヒエ」の除草のことなのです。

草の姿は稲そっくり、慣れないとなかなか見分けがつかません。しかも、稲の株に混ざって生えているので尚更タチが悪い。よく考えたら、チェーン除草が行き届かないようなところ、すなわち稲の生え際などでたくましく育っているんですね～。

しかし我々公文名ファイブのメンバーは日々の鍛錬により曇りなき眼を手に入れています。ぱしっとヒエだけ見つけ、根元からスパッと退治。ヒエの何が厄介かって、稲の養分を横取りすることもあるのですが、イネ科植物らしく、穂をつけ、実をつけ、多くの種をつけるんです。それが散らばるとまた来年ヒエに悩まされるわけで、汗をかきかき対応した次第です。いやーたと採れたな～、嬉しくないけど。来年は、少ないといいな～…。



イネカリ

そんなこんなと手を掛け育てた稲、10月に刈り取りしました。今年も全体はコンバインをお願いしつつ、田んぼの四隅（コンバインが転回するための「のりしろ」部分）はみんなで手刈り、はざがけです。

稲を手刈りする時のお約束、それは「いいね👍の手」。Badの手で稲刈りすると、稲に隠れた親指を切ってしまう可能性があるんですね～。ノコギリ鎌でざくざくと、子どもも大人も一生懸命刈り取ります。溜まったら紐で結わって束にして、束がたまったら竹の台に掛けましょう。この時にもコツがあるのですが、文字での説明は難しいので割愛！気になる方は来年の稲刈りで！

そういえば、稲刈り中には色々面白いものを見つけましたよ。鳥の巣やネズミの巣など、詳細は裏面でご紹介します。

でもねー、今年の収量はいまいちでした。品種を変えたから米の一粒が小さくなったのも影響してそうですが、うーむ。肥料なのか暑さなのか？冬の間に勉強して、来年の田んぼ仕事に備えましょう～！

それにしても…。小さい人はいいいですね～。田んぼの稲も迷路ですね！



森づくり まきまきパン

9月28日に県民森づくり大作戦まきまきパンづくりイベントを実施しました。大人7人、子ども6人、みんなで火おこし・パンづくりを行いました。天気も良く、生き物探しやネイチャーゲームで自然遊びも楽しみながらの活動でした。

初めましてのメンバーで自己紹介から始まり、九十九さんからは活動場所の仙郷の森・多目的広場についてや生き物について、針葉樹や紅葉樹についてのお話をみんなで聞きました。自然遊びは「私は誰でしょう」ゲームを行いました！相手からヒントをもらいながら自分の後ろについてる生き物カードがなんの生き物か当てていきます。意外と難しい！ですがみんなでインタビューし合いながら、生息地や食べ物、特徴など生き物情報を学ぶことが出来ました。

そして、いよいよパン生地づくりです。大きなボウルに小麦粉・水・塩・砂糖・ドライイーストを分量を図りながら入れていきます。みんなで手で生地を捏ねました。生地がまとまってきたら、次は生地を分け、一人分の生地を入れた小袋を、自分の上着に入れて温めたり、日向に置いて太陽光で温めてみたり、生地をプチ発酵させます。

その間にマッチとバケツコンロを使って火おこしです。着火剤になる、よく燃える葉っぱはなんでしょう？小枝や太い枝はどのように組むとよく燃える？考えながらの火おこしです。マッチを初めて使う子もいました。マッチに火がつくと火はどういうふうに燃えるのか、どこが一番熱いのか、そんな火についてのお話もしました。

プチ発酵してすこしだけ膨らんだパン生地を今度は木の棒や竹の棒に巻き付け、いよいよ焼いていきます。焦げないようにここでもクルクル回しながら焼いていきます。上手にきつね色になってくると焼けたパンのいい香りがしてきました。食べてみると、ほんのり甘くて美味しい～と子どもたち、大人たちもほっこり笑顔になりました。

意外と簡単にパンが焼けるのと、ポケットに生地の入った袋を入れて遊んでいるうちに、生地が少し大きくなる、そんなプチ発酵の様子を見て感じるのも面白いので、ぜひお家やキャンプでお試しあれ！



田んぼで見つけたもの

田んぼを田んぼとして使うことで、田んぼに棲む生き物が帰ってくることを期待して田んぼをやっているのですが、年を重ねるごとに生き物の種類や個体数が増えている気がします。

今年は水鳥の巣が見られました。残念ながら名前は分かりませんが、巣を見つけた仲間が調べてくれたところ、クイナ類が近そうです。稲の株2つを使い、粗めに編んだような巣で、水上のベッドというかハンモックというか、そんな雰囲気の良い巣でした。地上より天敵は少ないのかもしれません。来年はどんな鳥なのか目撃したいものです。

昨年も見かけたカヤネズミ、今年は巣の数も多くなったように感じました。作業中には生きた個体も見ることができましたよ。小さくてかわいい！しっぽを上手に使い稲にしがみつきのながら移動していました。こいつも水上生活ですね。

前号で書いたようにトノサマガエルも増えてきて、ああ、やりたかったことが出来ている感じ。来年余裕があれば、どれだけの種類の生き物が棲んでいるのか、確認してみようと思います。

